

地方独立行政法人山口県立病院機構評価委員会（第37回）の概要

1 開催日時

令和4年7月20日（水） 10:00から11:50まで

2 開催場所

山口県庁本館棟4階 共用第4会議室

3 出席者

評価委員会委員： 5人

事務局： 4人

法人： 14人

4 内容

(1) 県健康福祉部理事挨拶

(2) 議事

① 令和3年度における法人の業務の実績に関する評価について

② 第3期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間における法人の業務の実績に関する評価について

③ 山口県立総合医療センターの機能強化について（報告）

- ・ 事務局から資料1～資料2、資料6について、法人から資料3～資料5について説明

主な質疑応答・意見

〔●委員 □法人〕

● こころの医療センターの平均在院日数が減少しているが、良いことなのか。

□ 病院としてチーム医療を実践した取組の成果と考える。ただし、収益面では、新規入院患者数は増加したものの、平均在院日数の減少に伴い、入院診療収益が減少した要因の一つと考えている。

● 総合医療センターでは、助産師がいるにもかかわらず、院内助産院の分娩件数が0件となっている理由は何か。

□ 正常分娩でも分娩介助室を希望する妊婦が増えてきたものと考えており、院内助産院の助産師については、産後ケアなどの対応に力を入れているところ。

● 心筋梗塞等の心血管疾患の項目において、計画に比べ大幅に少ない手

術件数があるが、新型コロナの影響だけでなく、例えば医師数が足りないなど病院側の体制の理由があるのか。

- 症例数が少なかったことや、心臓血管外科医などの確保が難しいため、苦戦しているところであるが、手術患者数は増加傾向にあるところ。

- 医療従事者等の研修において、実習生を受け入れ、指導内容の充実を図るなどと記載されているが、受入人数以外の質的な部分での評価は行っているか。
 - 現状では実習生の受入人数にて評価しており、指導内容などによる質的な評価は今後の検討課題と考えている。

- 今回、目的積立金を計上・活用して医療従事者、特に看護師の働き方改革のための勤務環境づくりに向け、きめ細やかに意欲的に取り組まれることはとても評価すべき点である。

- 山口県の医師は高齢化が進んでいるが、今後の若手を含めた医師確保をどのように進めるのか。
 - 初期臨床研修医は増えているが、専攻医は流出しているように思われる。大学を中心とした研修プログラムに協力し、スタッフの養成や最新の医療機器導入などにより、医師の県内定着に向け貢献したい。

- 看護師不足の記載がある中、優れた人材の確保の評価を十分達成としているが、看護職員の充足率はどうか。
 - 充足率という意味では、病棟において順調に運用ができており、なおかつ余力を持って対応できている。

③ その他

- ・ 次回の評価委員会は、8月9日（火）の午前10時から開催する。